

「反芻力」⑤:トヨタから学んだ事:「大志」をもつ

1. 「成瀬班長の話」

トヨタ販売店在職中に、トヨタ自動車の改善チームの鏝本先生の指導を受けた事がありました。先生は我々のモチベーションUPの為にいろいろな事例などを織り込んで話をして下さいました。その中に「成瀬班長の話」というのがありました。これは、『トヨタがルマン24時間耐久レースに出ていた頃の話です。昭和48年に起こったオイル・ショックと環境問題で起こった排気ガス対策の為にトヨタはレース活動から撤退することになったのです。成瀬さんは、入社(昭和38年)以来、レースチームに属しており、俺には神様ががついていると思ったという程にレースに出て勝つ事だけを考える人だったのです。これ程にレースに熱中していたのですが、会社方針で、成瀬さんは配置転換で工場のライン班長になったのです。「レースで勝つ」という目標を失った成瀬さんは、思い悩んで鏝本先生(当時、課長)のカウンセリングを受けたのです。先生と何度も話を繰り返す中で「人を活かす」という新しい目標に気づいて「再生」をし始める』という話なのです。

最近、ニュースで知ったのですが、その成瀬さんは本年(2010年)6月23日、ドイツのサーキット「ニュルブルクリンク」近くの公道で、レクサスLFAをテスト・ドライブ中にドイツ・メーカーのテスト車と正面衝突で事故死したのです。トヨタのテスト・ドライバーとして活躍して名車の開発に携わってきたとの事です。享年67才なので、定年後も現役で活躍していたという事です。

このニュースから判った事なのですが、彼は、その後、テスト・ドライバーに復帰しており、実践派の方らしく、トヨタの300名にも上るテスト・ドライバー達の先頭に立って人生を走り続けたという事なのです。これは私の推測なのですが、鏝本先生が「成瀬班長の話」として話されるほどに「思い」の純粋な方だったのだらうと思うのです。テスト・ドライブ中に事故で死ぬという不幸な事なのですが、ある意味、彼にとって、本望だったと思うのです。それにしてもトヨタの人材という物の凄さを再確認したのです。

2. 「大志」

このようにトヨタでは素晴らしい人が沢山おられるのですが、鏝本先生は「大志」という事で「一生かかっても達成できないような大きな目標をもて」という事を通して

10年続ければ、達成できる 20年続ければ、プロになれる 30年続ければ、神様になれる。
--

と教えて下さいました。

成瀬さんは63年の入社で、定年後も約300人のテスト・ドライバー軍団の頂点に立って事故という不幸な事ですが、本当の意味で「神様」になって他界されたのです。鏝本先生は、メールで

『「成瀬班長」は私が30代前半で出会った人ですね。班長特別教育の受講生で、忘れ得ぬ人々の中でも特別な1人です。ついに世界でもトップクラスのテストドライバーになられました。特に後進の育成と言う点では、抜きんでているということですね。人間としての境地の高さから出てくる言動が心に響き、周辺の多くの人達に影響を与えていったものと思います。栩野さんのメルマガを拝読致しました。「人間としての境地の高さを求めておられる、後進の育成に情熱を燃やされている」と言う点で成瀬さんと共通するものを感じました。とてもいい話ですね。』

と成瀬さんを讃えるとともに、私にもエールを送って下さいました。私は、この鏝本先生のエールで

「やる気」がもくもくと大きくなりました。

3. 仮想ライバル

ちょっと大きな話ですが、皆さんの会社のベンチマークするライバルを明確にしているでしょうか。このライバルが途方も無いほどに先行しているとしたら如何でしょうか。実は、昭和25年にトヨタは最大のピンチに陥り労働争議が起こった程だったのです。この時に、故大野耐一さん達は二度とこのような事態を迎えないと決意して「GMを抜く」という大きな目標を掲げたのです。この大方針で有名なカンバン方式を編み出されたのです。

多くの会社で「ベンチマークするライバル会社はございますか」と伺うのですが、あったとしても身近な競合会社であったりするのです。これでは「日常」に埋没してしまうのです。中には「師と仰ぐ社長さんのいる会社」と答える方もいらっしゃいますが、少ないように思います。営業関係でストレッチ・カスタマーという言葉がありますが、ストレッチ＝自分を伸ばしてくれるお客様を指し、この重要なお客様の要求に応えることで技術や営業力が伸びるのです。

「ところで、栩野さんのベンチマークは何なのですか」と問いかけられそうです。私の場合、経営コンサルタントとしては、師として、鏝本正先生と船井幸男先生の2人を目標に掲げています。企業としては、電通を掲げています。「師」という意味では、両先生から教わったことを栩野流にして実践しており、15年の経歴でようやく「道」が見えてきた感じがするところです。企業としては、「逆包み込み」の発想で電通のできない分野で「力相応一番」を目指しています。

4. 人生計画

私は、平成7年に船井総研の客員経営コンサルタントという資格を得て、「志」をもって経営コンサルタントの道に踏み出したのですが、それから15年の経歴を積みました。鏝本先生から教わった尺度に照らし合わせますと、

「10年続ければ、達成できる」・・・自分なりのコンサル手法を確立することができた

「20年続ければ、プロになれる」・・・あと5年の修行が必要(現在60才)

「30年続ければ、神様になれる」・・・15年後は75才なので元気であれば可能性はあるという風に考えています。

すでに、60才で年金のうち報酬比例部分を頂いています。「プロ」という時期(65才)では、基礎部分も頂けるようになるので「収入」という意味ではこだわる必要がますます薄れます。「金」というパワーに縛られずに、論語に言う60代:耳順、70代:従心を実践したいと思っています。

【まとめ】

1. 「成瀬班長の話」・・・生涯現役テスト・ドライバー
2. 「大志」・・・一生かかっても実現できないような大きな志
3. 「仮想ライバル」や「師」を持つことで自分をストレッチする
4. 人生計画: 論語に学ぶ年相応の使命

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】